

お返し班会プラスワン 看護部の取り組み

お返し班会プラスワンとは

健診結果説明だけでは 話が深まらない時も…。1〜2時間の班会で、せっかく地域に出向くならイマドキの伝えたいことをプラスしようと看護部では、これまで〇〇体操、健診結果と食事の関係、健康習慣、健康観などお返し班会にプラスして話してきました。2年間「リビングウィル」と「認知症」についてプラスして話してきたことを報告します。

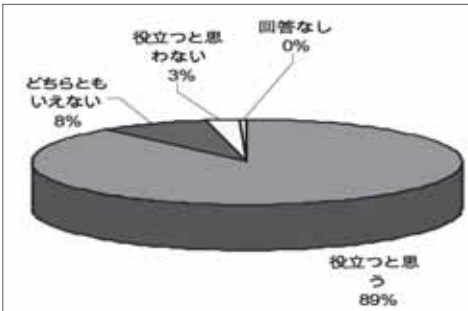
北医療生協の「お返し班会」とは 組合員が、班の年間計画の中で、看護師を講師に呼び、組合員健診の結果説明を受ける班会を、「お返し班会」といいます。

2011年度

「リビングウィル」

「その時」を迎えた時 家族は苦悩しています。 終末期の意思表示の必要性を広げようと、北病院倫理委員会で物語風紙芝居を作成しました。

今回の内容は、今後の 延命治療や最期の迎え 方の判断に役立つと思 いますか？



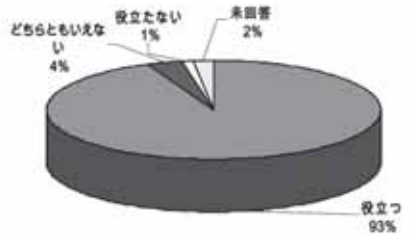
- リビングウィル参加回答 230名
- ・年齢 60〜70歳代 77%
- ・女性 96%
- ・身内の延命治療や最期の迎え方について判断に困った経験がある 24%
- ・リビングウィルについて 知っている 22%
聞いたことはある 42% 班会で初めて知った 35%

2012年度

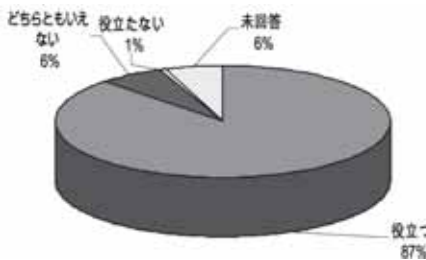
「認知症」

毎年要請し、それぞれの力量で対応しています。これからますます重要なテーマ、リビングウィル続編物語風紙芝居を作成しました。班会へ参加すること、これこそが認知症予防です。

「病気の説明」は認知症理解に役立つ



「認知症の気持ち体験」は 認知症理解に役立つ



- 認知症参加回答 200名
- ・年齢 60〜70歳代 77%
- ・女性 94%
- ・介護経験あり 35%

まとめ

アンケートを実施し、お返し班会への期待が大きいことがわかりました。プラスワンを準備し実施することで、均一なお返し班会となりました。他職種の協力で、完成度の高いプラスワンになりました。お返し班会が、看護師から組合員さんへ「専門家が説明する」という一方通行でなく、組合員さんから組合員さ

んへ、組合員さんから看護師へ、そして地域へと、豊かに生きる取り組みを共有し、高めあい、さらに広げる場となっているようです。2013年もお返し班会、プラスワンを構想中です。年々お返し班会の回数も増え、看護師の参加も厳しくなっています。みなさんの周りの看護師をご紹介ください。